

☆熊野市立有馬中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

子どもたちは、異年齢交流が盛んで、互いに声をかけ合い積極的に活動する姿が見られます。しかし、その一方で、変容する社会情勢の影響等により自尊心や学習意欲が高められず、学力の定着に課題があったり、より良い人間関係づくりの力が育っていなかったり、不登校傾向になったりする実態も見受けられていました。

そこで、このような課題を解決するために、子ども支援ネットワークでは、まず、保小中の連携を図り、地域ぐるみの活動を実施することで、子どもたちに対して大人が積極的に係わり、子どもたちの居場所や出番を創出する活動の充実をめざしました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 校区あいさつ運動

子ども・保護者・地域住民が互いを知り合うきっかけづくりとして、中学生が中心となり、「校区あいさつ運動」の取組をスタートしました。中学生が、小学生やその保護者、地域住民とあいさつを交わし、集団登校から遅れがちな小学生に声かけ等を行うことで、人々のつながりが深まるとともに、中学校や生徒に対する地域住民の関心が一層高まりました。

また、子ども支援ネットワークでは、集団登校に遅れがちな子どもの様子を共有することにより、地域内での見守りや学校と家庭の連携等を強化することができました。

(2) 中学校区清掃活動

子どもと大人のつながりをさらに深めることや、子どもが地域への理解を深め、地域を大切にする気持ちを醸成すること、中学生が活躍する場をつくること等をねらいとして、清掃活動を実施しました。また、活動終了後には、中学3年生が中心となり、すべての参加者が一緒に活動できるゲームや折り紙遊びを行い、幅広い年齢層の交流が深められました。



清掃活動の様子

子どもたちは、参加した大人から、「ごくろうさま」「ありがとう」「とてもしっかりしていて、たのしい」等の声をかけられ、自分たちが地域の役に立っていることを実感して、自信を深めることができました。

(3) 中学校区人権フォーラム「想いを聴き、そして語ろう！」

子どもたちが、さまざまな大人の「思い」を聴き、人権感覚を高め、生き方の視野を広げること等をねらいとして、中学校区人権フォーラムを実施しました。

小学生が「いじめ」について、中学生が「安心して暮らせる権利」についての作文を発表した後、自分をもっと好きになるために自尊心を高める方法等に関する講演会が実施されました。講演会の後、子どもたち（小学校6年生と中学校1年生から3年生）は、26のグループに分かれ、意見等の交流を行いました。一緒に参加していた保護者や地域住民からは、「小中学生がしっかりした意見を持っている」、「中学生の司会が大変上手だ」という声かけがあり、子どもたちは自己有用感や自尊心を高め、発表や表現することの楽しさを実感する等、意欲が高まる活動となりました。



人権フォーラムの様子

◆実践を振り返って

有馬中学校区では、子ども支援ネットワークの取組を基盤とし、保護者や地域住民が子どもたちを継続的に励まし、褒め、係わってきました。その成果として、子どもたちは一人の人間として、「自分は役に立っている」「必要とされている」ということを実感し、自分を肯定的に捉え、自尊心や学習意欲が高まったと考えています。それは、校内の持久走で1位をとる頑張りやねばり強さを発揮している姿、友だちとの関係づくりや授業に積極的な姿、頑張って宿題を提出している姿等から感じることができます。また、子どもだけでなく保護者や地域住民が、自分が人の役に立っているということを実感する取組となりました。

今後も、子どもの課題をしっかりと共有して、協力関係を一層強めると共に、子ども支援ネットワークの活動をさらに工夫し、発展させていきたいと考えています。